

助産学科

この学科は、看護師の教育を受けた女子が、助産師の資格を取得する教育コースです。

助産師として実践活動ができる能力を養うとともに、妊産褥婦への援助だけでなく家族を中心とした地域の母子保健向上に寄与できる人材の育成を目指します。

1 助産学科教育目的

妊産褥婦の主体性を重んじた安全安楽な出産への援助ができる能力を養うとともに、人間の性と生殖に関わる母子保健の向上に寄与できる人材を育成する。

2 教育目標

1) 生命の尊厳を基盤とし、人間を総合的に理解し、人権を尊重する態度を養う。

2) 胎児・新生児・乳幼児・妊産褥婦の健康水準を判断し、援助ができる能力を養う。

3) 人間の生涯を通じた性および生殖を中心とする健康管理に必要な基本的知識・技術を養う。

4) 地域の母子保健サービスを提供する基礎的能力を養う。

5) 保健医療福祉チームの一員としての責務を自覚し、他の専門職と連携し協働する能力を養う。

6) 専門職として科学的・主体的に思考し、探求・創造する態度を養う。

3 教育内容

	授業科目	単位数	時間数
基礎助産学	助産学概論	1	15
	人間の性と生殖	1	30
	母子の健康科学	1	30
	妊娠・分娩・産褥の生理と病態	2	60
	新生児・乳幼児の成長発達	1	30
	家族の心理・社会学	1	30
	研究	2	30

助 ・産 技診 術断 学	助産活動論Ⅰ	3	90
	助産活動論Ⅱ	2	45
	助産活動論Ⅲ	1	30
	助産活動論Ⅳ	1	15
	健康教育論	1	30
地域母子保健		1	30
助産管理		1	30
臨 地 実 習	助産学実習（妊娠期）	2	90
	助産学実習（分娩期）	3	135
	助産学実習（産褥期・新生児期）	4	180
	地域母子保健実習	1	45
計		29	945

4 臨地実習計画

科 目	目的・目標
助産学実習(妊娠期)	<p>目的 助産学をもとに主体的に思考し、行動できる専門的な知識・技術・態度を修得する。</p> <p>目標 1 妊婦の健康診査および保健指導を通して、助産過程が展開できる。 2 集団指導の企画・運営が行える。 3 妊娠期における助産業務管理が理解できる。</p>
助産学実習(分娩期)	<p>目的 助産学をもとに主体的に思考し、行動できる専門的な知識・技術・態度を修得する。</p> <p>目標 1 産婦の健康診査および保健指導を通して、助産過程が展開できる。 2 分娩介助を通して助産技術の修得ができる。 《取り扱う分娩》 正期産 経膈分娩 頭位単胎 分娩第1期から4期まで 3 分娩期における助産業務管理が理解できる。</p>

<p>助産学実習(産褥期・新生児期)</p>	<p>目的 助産学をもとに主体的に思考し、行動できる専門的な知識・技術・態度を修得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 褥婦の健康診査および保健指導を通して、助産過程が展開できる。 2 新生児・異常新生児の健康診査およびケアを通して、助産過程が展開できる。 3 集団指導の企画・運営が行える。 4 産褥期・新生児期、NICUにおける助産業務管理が理解できる。
<p>地域母子保健実習</p>	<p>目的 地域における母子保健の現状と母子保健活動の実際を知り、その中での助産師の役割を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の情報収集を行い、地域の抱える問題点・課題が見いだせる。 2 母子保健に必要な社会資源の活用・関係機関との連携がわかる。 3 地域における母子保健活動の実際がわかり、助産師の役割が考えられる。 4 地域の学校で性教育を経験し、助産師が伝える命の大切さの意味がわかる。